30pmS-036

介護支援システムの開発

○加藤　哲太[1], 山田　純司[1], 高木　教夫[1], 高木　慶子[1], 福田　早苗[2], 杉山　康彦[3]
([1]東京薬大薬, [2]三洋薬局, [3]シーイー・フォックス)

【目的】超高齢社会が進む中,「要介護認定の判定基準の困難さ」や「高齢者の適切な医療の確保」など様々な課題が挙げられる．認定は身体障害による介護サービスの必要度(時間)を判定するものであり，健康状態の把握は目的としていない．従って，認定結果だけの支援は適切な医療を確保するには難しく，不適切な介護サービスの要因にもなる．当研究室はこれまで，薬剤師の問診スキル向上のため「症例学習システム」を構築してきた．現在，開発した症例コンテンツの知識情報データベース（症状データベースと患者特性データベース）をもとに，高齢者の症状を的確に捉えた「介護支援システム」の構築を試みている．本システムは，介護認定調査を実施するだけで高齢者の疾病に関する発症の可能性等(健康状態)を自動的に分析することを目的にしている．今回は要介護の主な原因疾患であるアルツハイマー病(ＡＤ)を中心に解析した.

【方法】ｉＰａｄを利用し，認定調査の結果を症状データベースに入力する．その後，登録された高齢者の症状と，患者特性データベースで定義した疾病の症状や重症度(点数化)をもとに，疾病可能性分析プログラムが疾患の可能性を分析する．本分析では，疾病(今回はＡＤ)の発症を肯定する項目および疾病を否定する項目を別々に加点し，疾病の可能性を導き出した.

【結果】本研究開発は，高齢者の状態を，ＡＤの可能性，不明，ＡＤでない可能性の３種類に分類し，解析することが可能になった．また，本システムを経時的に使用することで，従来の定点的な介護認定と比較して高齢者の実態に，より充実した支援を可能とするものである.